



新年度に当たり(葛藤) いよいよ新年度がスタートします。令和2年度は、愛の浜園にとって大きな判断を迫られる年になりました。それは、利用者の高齢化に伴う日中活動の定員変更です。B型事業所における、現在のペットボトル分別作業は、終日立ちっ放しの重労働です。それでも、そのようなことは苦にもせず、むしろ喜びを感じながら取り組んでいる利用者の姿があります。しかし、65歳を優に超えた利用者の姿を目の当たりにする時に、本人の希望とはいえこのままで良いのか考えざるを得ません。本人の体力や障害特性、そしてその作業に従事することの喜びなど、多方面について専門性を活かした判断が必要となりました。「利用者本人と十分に話し合い、生きがいを奪い取ることがないように・・・。」との配慮を常に考えながら、そのことに代わる利用者それぞれに応じたサービス内容を提供したいと思います。令和2年度は、高齢利用者(65歳以上)のこれからの生活の在り方について、再考の一年といたします。(園長: 榮野)

4月行事予定表

1日(水): 体重測定・血圧測定
3日(金): 相良クリニック
婦人科検診
14日(火): 音楽療法
16日(木): 避難訓練
21日(火): 健康相談

お誕生日おめでとうございます



用 得美さん 中江 公三さん

旧桃の節句 生活介護

3月26日(木)、今年度最後の行事、旧桃の節句がありました。少し風が強い時もありましたが、ぽかぽか陽気で気持ちのいい天気になりました。旧桃の節句(浜下れ)は奄美の昔からの風習で、初節句を迎える女の子は足を潮水に付け、1年間の健康を願うという行事になっています。この日に海に行かないとカラスになるという言い伝えもあるようです。私が小学生の頃は学校や市役所職員もお昼から休みになり、家族でお弁当を持って海岸に下り、潮干狩りを楽しんでいました。瀬戸内町古仁屋では今でもこの風習が残っているようです。愛の浜園の桃の節句は15年ほど前までは貝採りや岩場に生えたアオサ摘みを楽しんでいましたが、最近は近場の砂浜を散歩したり、レクリエーションを楽しみ、みんなでお弁当を食べるという行事になっています。心地良い潮風に当たりながら、それぞれが希望した美味しいお弁当を食べ、満足した桃の節句になりました。利用者・職員の皆さんが今年1年健康で過せますように。(記事: 福山)



旧桃の節句

就労継続支援 B型事業

就労継続支援B型事業は3月26日(木)、旧桃の節句として大和村の津名久(つなぐ)に魚釣りや海岸散策などに行ってきました。実は今回の目的地である津名久集落は利用者さんの生まれ故郷でもあり、移動中にも「知っている人がいた。」「この港は魚が釣れる!」など、笑顔で皆に集落の説明をしてきていました。目的地到着後は「海岸での散策チーム」「魚釣りチーム」「ゆっくり過ごすチーム」に別れ、各々の楽しみ方で過ごす事が出来たのではないかと思います。就労継続支援B型事業の利用者さんは、日々様々な作業を頑張っていますが、日々の頑張りがあからこそ、普段とは違う楽しみがいつにも増して感じられるのかな・・・と、魚を釣った利用者さんの笑顔を見た時に強く感じました。(記事: 田畑)



グループホーム フレンド

平成30年3月、グループホームの新設に伴い、愛の浜園グループホームに入所されたNさん。今年3月のモニタリング、個別計画書会議では椅子に座る前から「愛の浜園に来て良かった。嬉しいです。ありがとう。」と笑顔で話してくれました。入所当初は恥ずかしがって会話も余りありませんでしたが、最近は冗談を言ったり、「今日も頑張ってきますね。」とハイタッチを求め、元気に作業所に通っています。そして工賃日には嬉しそうに事務所に預けにきています。時々、事務所に収穫した野菜を販売に来ますが、接客もとても上手です。周りの職員から「もとても明るくなった。」と言われ、私も嬉しく思っています。会議の中で「何かしてみたい事、希望等ありますか?」との問いかけに、「大好きな歌手(玉置浩二)のコンサートに行きたい。」と言う希望がありました。毎日、CDを聴いて楽しんでおり、DVDを購入する予定にもなっています。すぐにはコンサートに行けないので少しでも雰囲気味わえたらと思っています。いつか、本人の希望が叶えられたらと思っています。(記事: 福山)

施設入所 生活介護

新年度が始まりました。施設入所、生活介護では、毎月、利用者のケース会議を行っています。利用者の課題を担任だけではなく、生活支援員やグループホームの生活支援員、相談員、必要に応じて看護師、管理栄養士も含め、話し合いを行い、今後の方向性を検討しています。現在、愛の浜園では、高齢化、重度化が進んでいます。私たちは、毎年、利用者の生活状況やスキルを確認しながら、見直し、検討してきました。今年度は活動の流れを少し変え、今まで以上に本人のニーズに沿った内容を取り入れ支援していこうと考えています。年齢が高い方へは、ゆっくりと穏やかな日課を提供し、また、スキルが高く元気な方には、色々な事にチャレンジできるような活動を提供していきたいと考えています。利用者ひとりひとりには、まだまだ満足してもらえないと思いますが、これからも少しでも、利用者の皆さんが楽しく、そして幸せに過ごせるように、取り組んでいきたいと思っています。(記事: 市田)



就労継続支援B型事業

就労継続支援B型事業は、今年度も施設外就労と園内での生産活動に取り組んでいきます。施設外就労では、前年度に引き続き、奄美市のペットボトルとビンの分別作業を行う事になりました。その他に、今年度より、知名瀬公園の清掃業務を新たに受け持つ事になりました。生産活動では、手芸品作製や紬織り、そして、時計草、大根、ピーマン、茄子など季節に応じた農作物を作る農芸活動を行っています。利用者の皆さんが、一生懸命作った製品や農作物は、感謝祭などの行事以外でも随時販売していますので、機会があれば愛の浜園に見に来ていただけたらと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。(記事: 名島)



相談支援事業所 (ていだ)



奄美地区には、20ヶ所を超える相談支援事業所があります。私たち「ていだ」は、7年目を迎えました。これまでもたくさんの利用者の人生の一部分に携わらせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。悩み困っているとはいえ、自分たちの知られたくない事を私たち相談員に伝える事はとても勇気がいる事です。だからこそ、時間をかけ、回数を重ねながら、少しでも笑顔になれる計画を作成しようと努力しています。それでも上手くいかないケースはたくさんあります。その時にいつも思う事が、「利用者が諦めていないのに、相談員が諦めてはいけない。」「できない人は言い訳を探す。できない理由を探す事にパワーを注ぐ。でも、できる人はやり方を探す。」その言葉が頭をよぎります。この差はとても大きく、利用者にとっては大切な人生の岐路になるケースもあります。そのような事に携わり支援している事を念頭に入れながら相談業務に従事しています。人の人生は何があるか分かりませんが、私たち相談員の想いは、「笑顔」が少しでも増え、「自分らしく生きる。」人生であってほしいということです。(記事: 辻原)

年間努力賞

- ・光 優輔さん……1年を通して、苦手な食材も残すことなく食べる事ができました。
- ・古島 春樹さん……1年間、体調を崩すことなく愛の浜園を利用することができました。
- ・野畑 則和さん……1年間、透析治療(食事や通院等)を頑張りました。
- ・岩越 隆道さん……朝礼時の園歌を一年間1番元気に歌ってくれました。
- ・森山 麻李亜さん……おばあちゃんとの約束を守り愛の浜園での生活を過ごすことが出来ました。
- ・里 優子さん……新しい生活(愛の浜園での生活)になれ・楽しむことが出来ています。

- ・池田 ヨシエさん……91歳という高齢にもかかわらず、令和元年度は一度も入院することなく元気に過ごすことができました。
- ・竹田 美喜子さん……年間を通して居室の掃除を自主的に頑張りました。
- ・森 樹子さん……年間を通してダイエットに取り組み、入所時よりスリムになりました。
- ・生野 由子さん……年間を通して元気に過ごし、仕事に参加できました。
- ・西 順子さん……がん検診、歯科受診を受けることができ、苦手な食材も食べられるようになりました。

月間三賞受賞者

<努力賞>

- ・徳 朋裕さん……食堂掃除の際は、塵取り、箒を持って掃除に取り組んでいます。
- ・藤島 亜由美さん……入浴後、声掛けすることで、自分で体を拭く取り組むことができました。
- ・橋口 邦光さん……愛の浜園の生活介護に慣れるように頑張っています。
- ・松島 大志さん……訪問歯科でブラッシングを受けることができました。
- ・仁島 紀寿さん……班別活動のウォーキングを落ち着いて最後まで頑張ることができました。
- ・大山 真言さん……グループホームの生活に慣れ、楽しく生活ができています。
- ・平山 和子さん……夜間、用事がある時に、コールを押して職員に知らせることができるようになりました。
- ・西 順子さん……苦手な納豆を食べられるようになりました。
- ・伊元 サチ子さん……洗濯物を外に干すことができるようになりました。
- ・坂井 文也さん・岩切 正さん・用 得美さん・盛 重和さん
平田 広人さん……土曜、日曜は居室の掃除を頑張って取り組んでいます。

- ・中島 勇さん……自分の洗濯物を居室まで運ぶことができました。
- ・満林 アツ子さん……退院後、落ち着いて生活できています。

<親切賞>

- ・和田 勇登さん……食器を持つ事が苦手なお友達が、ご飯を食べる際、落ちないように支えてくれました。
- ・平田 広人さん……同じグループホームの方の体調不良を園の夜勤者に連絡し教えてくれました。
- ・永田 三十六さん……外出の際、同じグループホームの方の買い物を買ってきてくれました。
- ・岩越 タツヨさん……女性棟の装飾壁を飾る鬼の貼り絵作りを頑張りました。
- ・神田 和秋さん……同室の方の衣類を綺麗に片づけています。
- ・碩 友美さん・田畑 栄さん
……職員と一緒に洗濯物運搬を手伝ってくれました。
- ・中江 公三さん・濱手 輝代さん
……食事の配膳の手伝いをしてくれました。
- ・中田 茂代さん……グループホームの周辺の草取りを頑張りました。

3月の愛の浜園

誕生会



色とりどりの・・・ 愛の浜園感染予防の取り組み

新型コロナウイルスのニュースが続き、マスクやトイレトペーパーが店頭でなかなか手に入らなくなっています。やっと買ったマスクもコロナが身近で発生した時に残り少なくなる……。そんな不安がある中、愛の浜園の職員の取り組みとして、就労B型事業で手作りのマスクを作って職員に配っています。手芸品を作る際にでた余った生地を使用し、落ち着いた柄と明るい柄のリバーシブル。好みに柄を選んで使う事が出来ます。皆さん好きな柄のマスクを着けて表情も明るくなった気が…(顔は見えませんが)。今だからこそ見られる景色なのかなと。日々、職員のマスクの柄をチェックする毎日です。(記事: 恵(拓))

